

			25年度観察数													観察 月数	観察 数合計					
			観察月																			
			観察日																			
番号	科	名称	天気	晴	曇	曇	晴	曇	晴	晴	晴	晴	晴	晴	1	2	3					
1	カモ	カルガモ																0	0			
2	ハト	キジバト			4	4	1	1	1	1	2							7	14	ヒヨドリ	ムクドリ	
3	ウ	カワウ																0	0			
4	サギ	アオサギ																0	0			
5	サギ	ダイサギ	○															0	0			
6	カッコウ	ツツトリ	・															0	0			
7	トビ	トビ	○															0	0			
8	効	ツミ	VU															0	0			
9	効	ハイ効	VU															0	0			
10	効	オオタカ	VU															0	0			
11	効	ノスリ	VU															0	0			
12	キツツキ	コゲラ		2		2		2	2	4	2	2						7	16			
13	キツツキ	アカゲラ	○															0	0			
14	キツツキ	アオゲラ	○	1	1					1		1						4	4			
15	ハヤブサ	チョウゲンホウ	VU															0	0			
16	ハヤブサ	ハヤブサ	VU															0	0			
17	モズ	モズ	VU								1							1	1			
18	カラス	カケス																0	0			
19	カラス	オナガ	NT			3	2	10	2	2		8						6	27			
20	カラス	ハシボソガラス		4	5	7	3	18	5	5	4	9						9	60			
21	カラス	ハシブトガラス		4	10	4	5	8	9	19	2	6						9	67			
22	シジュウカラ	ヤマガラ	○			1				5		3						3	9			
23	シジュウカラ	シジュウカラ		10	12	12	6	5	6	18	21	12						9	102			
24	ツバメ	ツバメ				3												1	3			
25	ツバメ	イワツバメ	NT															0	0			
26	ヒヨドリ	ヒヨドリ		15	12	17	4	2		24	32	56						8	162			
27	ウグイス	ウグイス	○	7	5	3	3				3	3						6	24			
28	エナガ	エナガ			10	2		5	5			6						5	28			
29	メジロ	メジロ		4		4	2	6	3	8	17	4						8	48			
30	ムクドリ	ムクドリ		12	15													2	27			
31	ビタキ	シロハラ										1						1	1			
32	ビタキ	ツグミ										6						1	6			
33	ヒタキ	ルリヒタキ																0	0			
34	ヒタキ	ジョウビタキ																0	0			
35	ヒタキ	エゾビタキ																0	0			
36	ヒタキ	コサメビタキ	VU															0	0			
37	ヒタキ	キビタキ																0	0			
38	スズメ	スズメ																0	0			
39	セキレイ	キセキレイ																0	0			
40	セキレイ	ハクセキレイ																0	0			
41	アトリ	アトリ																0	0			
42	アトリ	カワラヒワ										16						1	16			
43	アトリ	シメ										6						1	6			
44	アトリ	イカル	NT															0	0			
45	ホオジロ	ホオジロ	NT															0	0			
46	ホオジロ	アオジ		1														1	1			
																		0	0			
																		0	0			
																		0	0			
																		0	0			
観察種数 月 / 年				10	9	12	8	9	8	10	9	15	0	0	0	20						

月	25年度コメント
4	木々は新緑の葉を繁らせ始め、鳥の観察がしにくい季節になってきた。サクラの花の蜜を吸うヒヨドリが見られた。ウグイスの囀りがあちこちで聞こえた。アオゲラのドラミング、鳴声が聞こえたが、姿を確認することはできなかった。コゲラの巣から、コゲラが出てきたのを観察した。来月には、ヒナに餌を運ぶ姿が見られな いかなと思った。ハシボソガラスも巣材を運ぶ姿が見られた。子育ての季節のようです。
5	ガビチョウの声が響き渡り、占領されたかと心配したが少し離れるとウグイスが良くさえずり、谷渡りと呼ば れる鳴き方をするこも有った。ムクドリの中に薄茶色の幼鳥が混じっていた。エナガが10羽ほど若葉の中 を連れ立って飛び回っていた。今年生まれた幼鳥が混じっていたようだ。コゲラは既に巣立ったのか姿は見 当たらなかった。シジュウカラの雄が青虫を啜えてきたと思ったら、枝にたたきつけていた。弱らせてから啜
6	梅雨の中休みで猛暑の中、樹々の葉も下草も青々と生い茂ってきた。ウグイスの囀りが涼し気に聞こえ、シ ジュウカラやメジロは高い梢を鳴きながら行き来していた。高い樹々の木陰となる低木ではコゲラなどが見 られた。また、赤い口が特徴のハシボソガラスの幼鳥の他、飛び方が未だ幼いヒヨドリの親子連れと思われ る一団も見られ、巣立ちが着実に進んでいる様子が見られた。
7	今日は猛暑日が予想されており、暑さのためか鳥影は少なかった。いつもは煩いくらい聞こえるヒヨドリの 鳴声も、殆ど聞こえなかった。涼しい山間部に移動したのかもしれない。飛んでいる鳥は少なく、ハシボソガ ラス、ハシブトガラス、ヒヨドリが、まれに飛ぶ位だった。そんな中、ガビチョウの大きな声が数か所で聞こ え、それに対抗するようにウグイスも、数か所で囀っていた。
8	猛暑が一服、全国各地で数日間雨模様の日が続いたが、本日は曇って湿度が高い。全体的に鳥影は少ない 中、ハシボソガラス、ハシブトガラスの集団が目立った。一方、エナガ・シジュウカラ・メジロ・コゲラの混群 と思われる一群が一時、高い梢を鳴きながら行き来していた。また、ハシボソガラスの一群の中に、口の中 が未だやや赤い、巣立って間もないと思われる一羽の姿が見られた。
9	厳しすぎる残暑に鳥も木陰で声を潜めているのか、カラス類の他の姿を確認するのが難しかった。隣接して いる建物の新しい白い囲みの中にヤマボウシの赤い実が見え、こちら側の高いサワラからそちら側へと移 動するコゲラを先頭にした混群に出会いました。シジュウカラの幼鳥も混じって、懸命に追っていました。車 や人が通るとこちら側に戻るを繰り返していました。
10	7月～9月の夏季は非常に少なかったヒヨドリが戻って来て、鳴声が煩いくらい聞こえた。武蔵台公園では 観察数が非常に少ないヤマガラが4羽も見られた。コゲラ、シジュウカラ、メジロ、ヤマガラ の混群が見られ るようになった。ヤマザクラの幹に、アオゲラによって掘られた穴を、小鳥が再利用している形跡が見られ た。今後、継続して観察したい。
11	一部で紅葉が進む秋晴れの中、シジュウカラ数羽とメジロ数羽が単体あるいは混群で梢から梢へ飛ぶ姿は 春～夏よりも数多く見られた。枯れた木の高い梢ではコゲラが忙しく幹を突いて餌を探す様子が見られ、笹 やぶではウグイスの地鳴きが聞こえた。また、秋を象徴するモズの高鳴きも確認できたが、府中市内で既に 確認されて始めている冬鳥の姿は今回はなかった。なお、ヤマザクラの幹にアオゲラによって掘られた小穴 は、今回は特段の変化等は無かった。
12	木々の葉が大分落ちて、小鳥が見やすい季節になってきた。ツグミ、シメ、シロハラなどの冬鳥も漸く観察で きるようになったが、まだ、木の上の方に止まっている。ツグミ、シロハラが地上に降りて採餌するのはもう 少し後になってからか。コゲラ、シジュウカラ、エナガの混群がみられた。メジロはヒヨドリジョウゴの赤い実 を啄んでいた。ウグイスの地鳴きも目立ったが、ガビチョウも藪から藪へ飛び回っていた。
1	
2	
3	

注1: 表の最下段は月ごとの観察種数と年間の観察種数。

注2: 名称欄記号は、2023年度東京都レッドデータ、北多摩の категория 表示。

外来種

観察月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カラハト		16			10		4		12				
カビチョウ		3	4	3	3	2	2			3			
ソウシチョウ													
ホンセイインコ													

レッドリスト表示について

名称欄に東京都レッドリストの категория 表示を行った。 categoria 表示の条件を以下に示す。

2023年版 東京都レッドリスト

対象地域 北多摩の評価による

категория 名称	表示	基本概念
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生で絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、ごく近い将来における野生で絶滅の危険性の高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状況をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」としての上位ランクに移行する要素を有するもの
ランク外	○	前回2010年版に掲載されていて今回の改定によりレッドリストから外れた種
非分布	・	主要な生息地でないという理由から対象外とされた種